

Special Exhibition of
Seto City Art Museum



K O B A S A M A

— 大松家と古狭間家を中心に —

瀬戸染付 開発の嫡流

磁祖加藤民吉没後200年アレ事業
瀬戸市美術館特別展

O H M A T S U

Great Families of
Blue and White Porcelain
Development



2023

8.5_土 → 10.1_日

【開館時間】9:00-17:00(入館は16:30まで) 【休館日】8月8日(火)、9月12日(火)

【入館料】一般:500円(400円) 高大生:300円(240円) ※20名以上の団体は()内の入館料 ※中学生以下、65歳以上、妊婦、障害者手帳(ミライロID可)をお持ちの方は無料

主催:瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団

右下:《染付桐鳳凰唐草文香炉》(岡崎市指定文化財) 加藤民吉(二代) 天保6年(1835) 胴径25.6cm 個人蔵 右上:《黄瀬戸獅子香炉》 伝加藤吉左衛門・加藤民吉(初代) 江戸時代後期 幅24.4×16.5cm 普門寺蔵
左下:《染付山水図透彫鉢》 伝加藤忠治 江戸時代後期 口径14.3cm 個人蔵 左上:《染付山水図水指》 伝加藤忠治 江戸時代後期 胴径16.2cm 個人蔵

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
E-Mail art@city.seto.lg.jp URL <http://www.seto-cul.jp/>

8月20日(日)から9月30日(土)まで、隣接する文化交流館のエレベーターが工事の為使用できません。



《染付草花図花瓶》 加藤重吉(四代)
明治時代前期 高さ31.0cm 横山美術館蔵

Special Exhibition of Seto City Art Museum

瀬戸染付

開発の嫡流

大松家と古狭間家を中心に

KOBASAMA OHMATSU

Great Families of
Blue and White Porcelain Development

磁祖加藤民吉没後200年ヲ事業 瀬戸市美術館特別展



《染付赤絵罍形香炉》 伝加藤民吉
江戸時代後期 高さ10.2cm 個人蔵

瀬戸における磁器生産の始まりは、天明年間(1781~89)、下品野村の加藤糸八が、肥前から逃亡してきた工人副島勇七から製磁法を学び、甥にあたる加藤忠治と力を合わせて研究を重ね、寛政元年(1789)に共同で磁器を試造したことだといわれています。そして、享和年間(1801~04)に入ると、瀬戸村の庄屋で窯屋取締役でもあった加藤唐左衛門や、加藤民吉の兄である加藤吉右衛門は、磁器焼造のための試行錯誤を重ねていました。また、熱田奉行津金文左衛門胤臣は、熱田前新田の開発に従事していた加藤吉左衛門、民吉父子に南京焼(染付磁器)の製法を伝え、享和元年(1801)にはまだまだ不十分であったが盃、小皿、箸立てなど白く焼きあがった染付磁器を焼き上げることに成功したと伝わります。

このように、瀬戸における磁器開発を主に担っていたのが、加藤吉右衛門・民吉に代表される「大松家」と、加藤忠治に代表される「古狭間家」と言えます。この両家は、瀬戸の陶祖である加藤四郎左衛門景正(藤四郎)からの家系である「山陶屋家」からの分家であり、同じくその家系からの分家として、加藤唐左衛門の「唐左衛門家」もあります。また、陶祖からの家系として「武右衛門家」があり、「山陶屋家」と「武右衛門家」が当時の瀬戸を代表する陶祖からの家系でした。

本展では、「大松家」と「古狭間家」という初期瀬戸染付を語る上では欠かせない二つの家系等に関連する作品を展示するとともに、民吉が修業した長崎県佐々町の窯跡から採集された陶片などを展示し、当時の瀬戸染付発展の状況を知っていただければと思っております。また令和6年(2024)に、民吉が没してから200年という節目の年を迎えますので、本展により、民吉の偉業を再認識するきっかけとなればと考えています。



《染付祥瑞捻文蓋置》 加藤民吉
江戸時代後期 幅5.4cm 個人蔵



《染付祥瑞捻文向付》 加藤民吉
江戸時代後期 高さ8.7cm 個人蔵



《陽刻上絵金彩牡丹鳥図蓋付大壺》 川本樹吉(初代)
明治時代前期 高さ45.4cm 瀬戸蔵ミュージアム蔵



《瑠璃袖花纹内染付吉祥図重箱》
川本樹吉(二代)・加藤喜太郎画
明治19年(1886) 高さ27.0cm 個人蔵

関連事業

展覧会ギャラリートーク 申し込み不要

当館学芸員が展覧会のポイントを解説します。
日時: 2023年8月26日(土)、9月18日(月・祝) 13:30~(1時間程度)
場所: 美術館展示室内(※要入館料)

磁祖加藤民吉フォーラムVI「佐々と加藤民吉」

民吉が修業を行った長崎県佐々町より講師を招へいし、フォーラムを開催します。
日時: 2023年8月19日(土) 13:30~(2時間程度)
講師: 脳由典氏(佐々町郷土史家)・新井憲彦氏(佐々焼陶房山彦 窯主)
場所: 瀬戸市文化センター31会議室 定員: 80名(先着) 参加費: 無料
※要電話申込: 0561-84-1093 ※7月1日(土) 10:00より受付開始(先着順)

同時開催

常設展「取蔵絵画展」 2023年8月5日(土)~10月1日(日)

常設展「取蔵陶芸展」 2023年8月5日(土)~10月1日(日)

近隣施設のご案内(予定)

瀬戸蔵ミュージアム TEL 0561-97-1190

- 企画展「新出土品展 品野の窯業」
2023年5月27日(土)~8月20日(日)
- 企画展「白雲陶器2ー瀬戸ノベルティへの展開ー」
2023年9月2日(土)~12月17日(日)

瀬戸市新世紀工芸館 TEL 0561-97-1001

- 交流棟企画展「夏の陶とガラス展」
2023年6月3日(土)~8月27日(日)

染付工芸館 TEL 0561-89-6001

- 企画展「生き物語 生命賛歌一宿りしものー」
2023年7月1日(土)~9月24日(日)

次回展覧会

瀬戸市制施行94周年記念 瀬戸市美術館特別企画展
「瀬戸ノベルティの至高-Made by MARUYAMA-」
2023年10月7日(土)~11月26日(日)



【電車でのアクセス】

■名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線で「栄」へ、名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。

【お車でのアクセス】 駐車場: 無料(500台)

■長久手I.C.から(所要時間約30分)
東名高速道路「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ。グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八津I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。

■せと赤津I.C.から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸市街地へ。

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西次町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
E-Mail art@city.seto.lg.jp
URL http://www.seto-cul.jp/

